株式会社東邦銀行

２０２６年３月期決算説明会

（２０２６年５月２８日開催）

主な質疑応答

Ｑ１．事業性貸出、特に東京での貸出拡大について、今後の具体的な施策やリスク・アセットとのバランスについて、もう少し詳しく説明してほしい。

Ａ１．東京での貸出については、これまでお付き合いのある上場企業様との取引が中心になる。一方で、新たな分野への取り組みも必要だと考えている。当行はこれまで、不動産ファイナンスをそれほど多く手掛けてきたわけではないが、メガバンク出身の専門人材をキャリア採用するなど、体制整備を進めている。こうした取り組みを通じて東京の貸出については、現在の 6,000 億円弱の水準から、少なくとも 1,000 億円程度は増やせるのではないかと見ている。

リスク･アセットとの関係では､東京での貸出は１人当たりの収益が大きい領域で､当行にとって、短期資金として残っている資金の利回りをいかに高めるかは大きな課題。リスク管理を踏まえながら、引き続き力を入れていきたいと考えている。

Ｑ２．　南東北元気プロジェクトについて、今後期待される効果や、KPI として掲げている連携効果額 100 億円をどのように把握していくのかも含めて説明してほしい。

Ａ２．南東北元気プロジェクトはまだ始まったばかりではあるが、山形、宮城、福島には、それぞれ製造業をはじめ力のある事業者が多く存在する。まずは、そうした分野での連携が重要だと考える。

事業承継なども含め、新しい動きが生まれる余地は十分にあると思う。また、観光のお客様をどう呼び込むかといったテーマでも､若い人たちによるプロジェクトが 2026 年 4 月から動き始めている。こうした取り組みの中から、新しい視点や連携が生まれることを期待している。

加えて、福島の浜通りでは福島国際研究教育機構の整備が進んでおり、ロケット関連事業などに取り組む方々も出てきている。こうした分野では、今後、資金ニーズも生じてくると思う。南東北元気プロジェクトのプラットフォームの中でも、こうした動きに対応していきたい。

KPI である連携効果額 100 億円については、一定のルールを設けたうえで、効果額を算出していく方針。進捗については随時確認し、公表していきたい。

以　上